

■この1年間の反省を！

本日の修了式をもって今年度が事実上終わり、4月からは新学年に進級することになります。春休み期間中に春期講習が実施されるコースもあるでしょうが、ほとんど宿題等がない生徒諸君もいるかと思います。特に宿題等がない諸君は、春休み中にこの1年間を振り返り、苦手科目を中心にしっかりと復習をしておくことを勧めます。模擬試験や定期考査の問題を使って復習するのも効果的かと思います。特に模擬試験の解答・解説は有効に活用してほしいものです。



さて、新3年生(現2年生)は進路活動本番まであつと言う間です。ぜひ、時間を有効に使って準備を進めていきましょう。大学・短大への進学はもちろん、どの道に進むにしても、何らかの基礎学力は問われますので、少しずつ机に向かう習慣をつけておいてほしいと思います。春休み中にオープンキャンパスが開催される学校もあるかと思われます。昨年の夏あたりから、オンラインによる開催ではなく、直接学校を見られる機会が増えているようです。まだ何らかの制限はあるかもしれませんが、各学校とも、できるだけコロナ禍前の状況にもどす形での開催を考えているようですので、ぜひ積極的に利用して、少しでも志望校に対する理解を深めるようにしてほしいものです。

1年生も4月から2年生です。まだまだ進学や就職は遠いものという感覚があるかもしれませんが、次年度は2回ほどリクルートの講演会を予定していますので、そういった機会もうまく活用して少しずつ意識を高め、大学、短大、専門学校のオープンキャンパスに早めに参加するようにしましょう。

いずれにしても、有意義な春休みとし、4月の始業式の際に元気に登校してくることを期待しています。

■昨日、高2保護者対象進路説明会を実施

昨日(3月14日)の午後6時から聖賢堂で高校2年生の保護者を対象に進路活動説明会を実施しました。今年度の進路実績についてお伝えした後、進学と就職に分けて、今後の活動の進め方についてお話ししました。特に進学については、どのくらいの費用が必要になるか、どのような奨学金があるかなどについて重点的に説明いたしました。今回参加されなかった保護者様は、後日、動画を配信いたしますので、そちらをご視聴いただき、ご確認いただきますようお願いいたします。なお、不明な点につきましては、早めに進路指導部までお問合せください。



■卒業生の合格体験記

卒業生の合格体験記です。今回はすべていわき市内の大学進学者です。なお、新年度も進学者・就職者の合格体験記を数回にわたり掲載予定です。

【合格体験記】 鈴木渉夢さん（3年1組）
東日本国際大学経済経営学部経済経営学科（指定校推薦）

私は、先生方や家族のサポートのおかげで東日本国際大学経済経営学部は無事合格することができました。

私は将来公務員になることを目標としており、専門的な知識を身につけ地域に貢献できるような公務員になりたいと思ったからです。

最初は公務員の専門学校に進学を考えていましたが、担任の先生や親と進路について話を進めていく上で、公務員になるためには勉強だけではなくコミュニケーションスキルなどが必要とされ、4年制大学に進学し公務員に必要な知識やスキルなどを補いたいと思いました。

大学入試までの間、放課後の時間などを使い記述式総合問題の模擬問題を使って表や数値を見て自分の考えをしっかりと書けるように何度も練習を重ね、面接練習は色々な先生方のご指導やたくさんのアドバイスを貰いながら入試に備えてきました。面接練習を始めた当初は、質問に対しての答えがまとまらず思うような回答が出来ませんでした。練習を重ねるにつれてどのような質問事項がきても回答していけるようになり、入試当日はやや緊張もありましたが練習してきた成果を発揮する事が出来ました。

合格発表で合格を知った時は、とても嬉しくてしっかりと練習してきたかいがあったと思いました。この受験を通してご指導して頂いた先生方、本当にありがとうございました。大学入学後は、自分の将来にしっかりと向き合い立派な公務員を目指していきたいと思います。

【合格体験記】 中嶋花音さん（3年1組）
いわき短期大学幼児教育科（公募制推薦）

私は、いわき短期大学幼児教育科に合格しました。また、学業奨学生第二種に受かることができました。私は、年下の面倒を見るのが好きで小学生の時から保育士になることが夢でした。いわき短期大学に進学するために昌平高校に入りました。

高校では陸上部に所属し、勉強との両立は大変でしたが、入試のとき推薦をもらえるように定期考査は手を抜かないようにしました。平均点を上げるために苦手教科に力を入れたりして色々工夫し自分に合う勉強法を見つけました。私は読むだけでは覚えられないので、ひたすら問題を解きました。また、資格や検定取得は面接でアピールできるし、周りとの差がつけられるのでおすすめです。
(裏面に続く)



勉強のやる気が出ない時は、「やれば終わる」と言い聞かせていました。同じ目標を持つ友達と勉強するとモチベーションが上がります。オープンキャンパスには2回行きました。短大の卒業生や在學生に学校の雰囲気や授業について聞いておくのも良いと思います。



今回受けた学業奨学生選考学科試験は過去問がないので、国語の先生にお願いして問題を解いたり、できる限りの対策をしました。面接は細かい内容も用意していたので、焦らず答えられました。緊張で息が続かなかったけど、明るい雰囲気で行われたので良かったです。

大学では、公務員資格を取得し公立の保育園に就職できるように2年間頑張りたいです。3年生になってからは、思っていたよりもあっという間に時間が過ぎるので1日1日を大切にしていきたいです。早めに目標を作ると後から少し楽になると思います。自分を信じて頑張ってください！応援しています。

【合格体験記】 遠藤日和さん（3年2組）
医療創生大学看護学部看護学科（指定校推薦）

私は、小学1年生の頃より「看護師になりたい」という夢を高校3年生になった今も変わらず抱き続けています。

私が昌平高校を選んだ理由は、福祉を学び、夢へのステップとして生かしたいという強い気持ちからでした。

正直、2年制の学校へ入り、資格を取得し早く現場入りすることも考えていました。病院経営をしている法人の看護学校か専門学校での選択に迷った時期もありましたが、ある先生の言葉をきっかけに、大学の進学を考えるようになりました。



今後は看護師、保健師の国家資格取得へ向け、一生懸命勉学に励み、いずれは小児科の看護師か、支援学校の保健の先生を目標に考えています。

昌平高校で取得した手話など、更に今後も学び、努力し、聴覚・聴力に障害がある方とコミュニケーションを図り、手話で会話ができるようになりたいと思っています。

私は、進路を目指すにあたり、考えさせられた事がたくさんありました。日々の学校生活の決まりであったり、学習の評定、部活動であったり様々です。しかし、自分の長所でもある正直な性格と、責任感の強さを貫く努力もしました。一方、互いの考えも聞き、尊重する事も大切にしてきました。

大学進学を決意した際には、たくさんの先生方に背中を押して頂き、アドバイスや道（選択肢）を広げて下さった事、本当に感謝しています。面接や生物の口頭試問などの練習の際にも親身に向き合ってくださいありがとうございました。今後も夢に向かって全力で頑張りたいと思っています。

夢を追い続ける事、見つける事で将来の希望に一步近づける。私はそう信じています。

■卒業生・遠藤日和さんの作文

3月4日(土)に卒業式が挙行政され、高校からは164名が巣立っていきました。卒業式当日に、『進路通信・卒業式特別号』を配信しました。その中で、日本福祉大学と朝日新聞社が主催する「第20回高校生福祉文化賞エッセイコンテスト」に応募し最優秀賞に輝いた遠藤日和さんの「私がもらった勇氣」という作品を紹介したのですが、筆者の感想等も含めて想像以上に遠藤さんが喜んでくれたのが印象的でした。在校生のみなさんとも共有したいと思いますので、ぜひ読んでみてください。なお、遠藤さんには、『進路通信』等で活用させてもらう旨話していますので、許可を得たうえで掲載しています。



「一緒に読んでもいいですか？」

思わず私の口から出た一言だった。

所属するJRC部(青少年赤十字連絡協議会)の地区総会でのことだった。

総会は、顧問の先生方の協力を得ながら、私たち高校生が主体となって運営した。参加校に特別支援学校も含まれ、その生徒が開会の言葉を担当した。しかし、壇上の彼の口からは、なかなか声が出てこない。彼に寄り添う先生は「3・2・1」と、指合図で発声を促しているのだが、彼の顔は強張っていくばかり。重い静寂が5分間はあったろうか。会場の参加者たちからの「頑張れ」と応援する眼差しと無言の激励を感じた。

私に何かできないだろうか。なんとかしたい。そんな思いから出たのが、冒頭の私の言葉だった。想定外の事態に、誰からも私の発言に反応はなかったが、無言の承諾と理解して、マイクを前にした彼の横に立った。

彼が手にする原稿には大きな文字で開会の言葉が記されていた。事前にだいた練習してきたことがわかった。私は、小声で「せーの」と彼に伝え、「これから」と読み始めた。その瞬間、彼から大きな声が出てきた。「これから、地区高等学校青少年赤十字連絡協議会開会式を始めます」

会場からは、大きな拍手が湧き起こり、拍手はしばらく止むことはなかった。

壇上から降りた彼と引率の先生から「ありがとう」とお礼を言われた時、何とも言えない穏やかな気持ちになった。勇氣をもらったのは私の方なのに…。

この体験を通して、私は、たとえ障害があっても、頑張り方は私たちと同じであること、苦手なこともあるが、助け合うことで一緒に生きていけるのだと実感し、同じ活動を頑張っている高校生がいるのを知った。

後日、特別支援学校から「一緒に読んでくれて、本当にありがとう」との手紙が学校に届いた。自然に笑みが溢れた私だった。

昨年12月に日本福祉大学の先生が学生募集で来校し、その際に先のエッセイコンテストの作品集を頂戴しました。その中の講評には、「勇氣も必要だったと思いますが、思わず体が動いてしまったのでしょうか。そこに普段の生活ぶりがにじみ出ているようで好感が持てました」とありました。みなさんはどのような感想を持ちましたか？ 遠藤さんには先の「合格体験記」にも登場してもらいましたが、後輩のみなさんが見習うべきところは多いと思います。少しでも参考にさせていただければ幸いです。 文責：清水聖(進路指導主事)